

まるりん通信

第170号 平成26年8月発行

公益財団法人 屋久島環境文化財団 Tel 42-2911 FAX 49-1018



屋久島ファンクラブ会員募集中

屋久島環境文化財団では、世界自然遺産の島「屋久島」のすばらしい自然・文化を未来へ引き継ぐための様々な活動に協力支援していただくために、「屋久島ファンクラブ」会員を募集しています。

いただきました会費は、屋久島の自然環境保全や文化芸術支援などに利用します。

ファンクラブ会員特典

- 財団会報誌「屋久島通信」を年3回お届け
 - 財団オリジナルガイドブック・グッズの進呈。2年分の会費で「図説 屋久島」を進呈
 - 村センター入館料無料（会員期間中何回でも）
 - 研修センター主催のセミナー利用料の割引（会員期間中何回でも）など
 - 「世界遺産屋久島WAON」カードを希望者全員に1枚プレゼント（チャージ料金は自己負担です。）
- 会費・・・2,000円/年



屋久島の自然・文化を未来に残すため皆様のご協力をお願いします。

屋久島自然・文化体験セミナー 屋久島感動めぐり

『屋久島でトレボラ♪』参加者募集中！

モッコム岳のトレッキングやうみがめ保護ボランティア活動、集落散策などを通して屋久島の海・山・里の魅力を学びながら楽しんでみませんか？

【開催日】9月19日(金)～9月21日(日)2泊3日

【参加費用】20,000円（食費・宿泊費・保険料込み）

【対象】高校生以上

【募集人員】20名(先着順)

【申込締切】平成26年9月5日(金)

【お申し込み・お問い合わせ】

研修センター Tel 46-2900 担当：山口

村センター 交流ホール展示1

「絵手紙を愛する会 絵手紙展」

が好き!!”

“自然が好き!!”

“平和が好き!!””



絵手紙を愛する人々の輪が広がっています。心優しい絵がたくさん展示してあります。ご覧ください。

主催：絵手紙を愛する会代表 肥後美穂子
開催期間：平成26年8月1日(金)～31日(日)
開催時間：9:00～17:00(最終日16:00まで)

第2回星空観察会

『秋の星空とアンドロメダ銀河』

- ・秋の星座や銀河、ギリシャ神話のお話をします。
- ・豪華景品が当たるかも？クイズ大会開催

※天候不良時は、内容を変更し、

スクリーンによる星空レクチャーになります。

【開催日】平成26年9月26日(金)

【時間】19:30～21:00(受付19時～)

【参加費】無料

【会場】旧小瀬田中学校校庭・体育館

【お問い合わせ】

研修センター Tel 46-2900 担当：牧

村センター 交流ホール展示2

「開館記念特別展」

“インストラクターだより展”

屋久島通信に掲載されたインストラクターだよりのまとめです。

自然の植物や生物などについて解りやすく解いています。

開催期間：平成26年8月1日(金)～31日(日)

※上記2つについては無料でご覧になれます。

文化村センターは8月、9月、10月は全日開館します。

ご家族、親戚、お誘い合わせてお越しください!!

研修センターは8月は無休、9月は8日(月)が休館日です。



～インストラクター便り～ 工藤 雄太

夏がやってきました。暑くて嫌いだという人、気分が高まるという人、人それぞれでしょうが、みなさんは「ひと夏の恋」を経験したことがありますか？かくいう私はしたことはありませんが「ひと夏の恋」というと、なんだか花火のように一瞬だけ燃え上がる切ないイメージがあるような気がします。人にとっては長い人生の中のひと夏でしょうが、生きている時間が短い生き物たちにとってこの夏だけが恋をできるチャンスであり、逃してしまえばもう恋ができないものも少なくありません。ですから、同じ種類どうしても他のオスに負けないように様々な恋の戦略を持っています。

代表的な例としてクワガタムシがいます。彼らのオスのアゴは大きければ大きいものほど、エサ場とそこにやってくるメスを独占し他のオスを撃退することができるモテ男な印象があります。このアゴの大きさや形は遺伝子や幼虫時代を過ごした環境により左右されることがわかっています。ではアゴの小さなオスは大きなオスに勝つためのどのような作戦を立てているのでしょうか？

屋久島でもよく見かけるノコギリクワガタではアゴの小さなオスは大きなオスにチカラでは敵いませんから、こっそり縄張りに侵入し見つからないよう行動したり、エサ場を次から次へ移動したり、行動時間をずらしたりして、隙をみてメスと交尾をします。小さいぶん移動に使うエネルギーも少なくてすみずみ、見つかる可能性も低くなるからでしょう。このように自分に見合った作戦を立てることが恋を成らせる重要なカギになるのだなあと、屋久島で迎える3度目の夏の日「虫の振りみて我が振り直そう」とこの記事を書きながら思うのでした。



(参考：徹底図解 昆虫の世界 岡島秀治監修 新星出版社)

☆☆財団の活動報告☆☆

自然に親しむ集い（7/21）

今年は『草花で遊ぼう！』と題して、春田浜で行いました。屋久島出身の寺田仁志先生のもと、イヌビワを食べたり、ダンチクで船を作ったり、タブノキで笛を作ったりと五感を使って楽しみました。次回は11月9日（日）の予定です。ふるってご参加ください。

むらせん祭り・映画上映会

7月27日（日）屋久島環境文化村センターにて、開館記念イベント『むらせん祭り』を開催し、バスボム作りや自然工作、オリジナルうちわ作りを楽しみました。

また、併せて『アナと雪の女王』を上映し、多くのお客様で賑わいました。

たくさんのご参加ありがとうございました。今後も様々なイベントを企画しますので、お楽しみに!!!



屋久島を想う 92

研修課長 竹本 准

屋久島ほど魅力的でユニークな島はありません。来るだけでも大変なこの島に、今では年間30万人もの方がその魅力に引きつけられて来島し、移住する人もいます。

屋久島には26年前、一人で来たことがありました。2月です。世界一長生きしている杉、縄文杉に会いたくて山に登ったのですが、その目的を忘れるほど森の中の景色が素晴らしかった。スギ、ツガ、モミ、ヒメシャラなどの巨木と苔に覆われた森。ヘゴが中生代のような雰囲気を出している。人間にほとんど会わない。2日間山に入って、サルとシカに会うばかり。ここは本当に現代だろうか、と思った。雨、ガスで、登山道を外れやすい。怖い山だとも思った。遠い昔に自分の中にあった気がする感性が再び呼び戻されてきたような実感がありました。下山して里で泊めていただいた家の人に野菜をいただき、とても謙虚で幸せな気持ちになったことを思い出します。

その屋久島は今では電気自動車の走る知名度抜群のエコの島。屋久島を想う人々の力はすごいと思います。

そこに美しい山があれば、絵描きは描きたいと思います。写真家は撮りたいと思います。ハンターは獲物を想像します。材木屋はそこで生業にしようと考えます。登山家は山中に分け入り、頂上に到達したいと思います。

人は関心のあるところから考える習性があるのでしょうか。関心がなければ、山はそこに存在しないのと同じこと。生きていくことは、関心を持っていくこと。これからも大いに興味、関心を持って屋久島を見ていきたいと思います。里のエコツアーや各集落で復活してきている岳参りは、里や山への関心が生活文化となった一例です。この類い希な屋久島の環境と文化がいつまでも保全されるように努力していきたいと思っています。